

社会福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	1年次	選択群		
使用教科書	社会福祉基礎 (実教出版)			副教材等	社会福祉基礎学習ノート (実教出版)		履修	必修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立とは何かについて考え、認識を深めていきます。さらに尊厳の保持や自立支援を介護福祉士が生活支援の場ではどのようにとらえ、実践していけば良いのかを事例を通して学びます。また、その際必要とされるコミュニケーションについての知識と技術や職業人に求められる倫理観についても学習します。				<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会福祉全体についての理解を深める。 現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解を深め、社会福祉の基本的な見方や考え方を身に付ける。 人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。 			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月							
	5月							
	6月							
	7月							
	9月	第1編 社会福祉の 理念と意義 第3編 生活を支 える社会福祉・ 社会保障制度	第1章 生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化と人口減少社会の到来 日本国憲法と社会福祉 人間としての尊厳 社会保障制度の意義と役割 人口の高齢化と高齢者福祉 介護保険制度 認知症ケア 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の変化 社会福祉を支える諸原理 自立生活支援 社会福祉と社会保障制度 高齢者の在宅サービス 介護保険施設・老人福祉施設・その他 			
	10月		第2章 社会福祉の理念					
	11月		第3章 人間の尊厳と福祉社会の創造					
	12月		第1章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割					
	1月	第3編 生活を支 える社会福祉・ 社会保障制度	第4章 高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の地域生活を支える各種サービス 高齢者福祉の将来・障害者福祉とは 身体障害者の現状と課題 身体障害者福祉の推進 障害者の自立支援 知的障害者の現状と課題 障害者グループホーム・ケアホーム 発達障害をめぐる多様な課題と支援 精神障害者の支援 				
2月	第3章 障害者福祉							
3月								
学習方法	【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。 【授業】 説明をよく聞き、板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。 【復習】 学習した福祉課題に対して、自分の考えをまとめる課題が頻繁に出されるので、きちんと提出しましょう。また新聞やTVニュース等による最新の福祉情報も素早く入手できるようにしておきましょう。							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに社会福祉の意義や役割について理解している。 福祉に関する諸活動に対応することを目指して、様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会構造や日常生活から起こる社会福祉に関する諸問題の解決を目指し、考えを深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉の見方・考え方を働かせ、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割		A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均	
備考	10月から7限目に補習を行います。11月から数Aに代わり、当科目の授業を行います。							

社会福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群		
使用教科書	社会福祉基礎 (実教出版)			副教材等			履修	必修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点や専門職としての倫理観を深めていきます。さらに対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、基礎的な知識を学習します。また、人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントについての知識と技術についても学習します。			<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会福祉全体についての理解を深める。 現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解を深め、社会福祉の基本的な見方や考え方を身に付ける。 人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。 			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項目	学 習 内 容				
	4月	第2編 社会福祉の 歴史と次代 の展望	第1章 諸外国における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> イギリスにおける社会福祉の発展 アメリカにおける社会福祉の発展 ヨーロッパ大陸諸国の社会福祉 アジアの少子高齢化と社会福祉の課題 				
	5月		第2章 日本における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> 近代社会福祉の黎明期 社会事業の成立と発展 戦後対策としての社会福祉の構築 				
	6月	第3編 生活を支える 社会福祉 ・社会保障制度	第5章 生活支援のための公的扶助	<ul style="list-style-type: none"> 新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入 次世代に向けた新たな社会福祉の挑戦 生活保護とは 生活保護の種類と基準 生活保護の実施体制と近年の動向 				
	7月		第6章 国民生活を支える社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会保険制度 医療保険制度 後期高齢者医療制度 公的年金制度の体系 雇用保険と労災保険 				
	9月	第3編 生活を支える 社会福祉 ・社会保障制度	第1章 コミュニケーションの基礎	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの意義と役割、手段と方法 傾聴・受容・共感の姿勢 利用者理解と支援者の自己理解 				
	10月		第2章 支援における人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> 個人に対する・グループや家族に対する支援活動とその方法 地域を基盤としたソーシャルワーク チームワークとリーダーシップ 				
	11月	第4編 人間関係と コミュニケーション	第3章 社会福祉における支援活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> 福祉・介護人材の養成とキャリア形成 				
	12月		第1章 多様な社会的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> 医療提供体制のしくみ 特別支援教育の制度、実際 司法と福祉の連携 権利擁護と成年後見制度 				
	1月	第5編 地域福祉の 進展と多様な 社会的支援制度	第2章 地域福祉の発展と地域の将来	<ul style="list-style-type: none"> つながりの再構築と社会福祉の役割 地域社会とボランティア 非営利組織の活動 福祉のまちづくりと地域社会 新時代に向けた社会福祉 				
	2月							
	3月							
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 学習した福祉課題に対して、自分の考えをまとめる課題が頻繁に出されるので、きちんと提出しましょう。また新聞やTVニュース等による最新の福祉情報も素早く入手できるようにしておきましょう。</p>							
評価の 観点・ 評価 規準・ 評価 方法	知識・理解		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに社会福祉の意義や役割について理解している。 福祉に関する諸活動に対応することを目指して、様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会構造や日常生活から起こる社会福祉に関する諸問題の解決を目指し、考えを深め、基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉の見方・考え方を働かせ、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期		年度末		
A：知識・技術（考査・小テスト等） B：思考・判断・表現（考査・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度：（提出物、授業態度、長期休業中の課題等）		A：4割 B：3割 C：3割	A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均			
備考								

介護福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	2年次	選択群		
使用教科書	介護福祉基礎 (実教出版)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>介護とは何か、介護の意義と役割について学びます。介護従事者としての心構え・注意点等を学び、国民の求める介護従事者の在り方について考えていきます。また、介護従事者として必要な介護福祉サービスの具体的な内容及び利用方法等の知識を深めていきます。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉の基本となる理念やしきみについて体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 職業人に求められる倫理観を踏まえ、介護福祉を取り巻く社会的な課題に対し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 介護の専門職としての能力と、介護活動に主体的・協働的に取り組む態度を養う。 			<p>介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1編 介護の意義と役割	第1章 尊厳を支える介護	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉の基本となる理念 介護の意義、役割、尊厳を支える介護 利用者主体の介護サービス 介護を必要とする高齢者の人権と尊厳 介護を必要とする障害者の人権と尊厳 自立を支援する専門職 個別性を尊重した自立のための支援 				
	5月		第2章 自立に向けた支援					
	6月	第2編 介護福祉の担い手	第1章 介護従事者をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> 介護の歴史と現状 ・介護福祉士の養成 介護人材の確保と定着 ・介護従事者のキャリアアップ 介護従事者の社会的地位の向上 				
	7月							
	9月	第2編 介護福祉の担い手	第2章 介護従事者の役割と介護福祉	<ul style="list-style-type: none"> 介護の役割、介護福祉士の専門性 災害時における支援、平常時の防災活動 在宅介護従事者の役割 ・施設介護従事者の役割 終末期における介護従事者の役割 				
	10月		第3章 介護従事者の倫理					
	11月		第4章 介護実践における連携					
	12月							
	1月	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	第1章 介護を必要とする人の生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 介護を必要とする人の生活環境 介護を必要とする人の背景と生活環境 高齢者の活動 ・高齢者をとりまく環境の考え方 高齢者の生活支援 ・障害とは何か 肢体不自由者の生活と支援 視覚障害者、聴覚・言語障害者の生活と支援 内部障害者の生活と支援 ・知的障害者の生活と支援 発達障害者の生活と支援 ・精神障害者の生活と支援 				
	2月		第2章 高齢者の生活と支援					
	3月		第3章 障害者の生活と支援					
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。演習等で学ぶ介護技術については、よく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。</p>							
評価の観点・評価方法	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義や役割について理解している。 介護を必要とする人に、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供することを目指してその技術を活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から派生する介護福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深めようとしている。 基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護に関心を持ち、介護に関する諸課題に主体的かつ協働的に取り組むとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方と介護を適切に行う態度を身に付けようとしている。 		
評価規準・評価方法	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	A：知識・技術（考査・小テスト等）		A：4割		A：4割		1・2・3学期の平均	
	B：思考・判断・表現（考査・レポート等）		B：3割		B：3割			
C：主体的に学習に取り組む態度：（提出物、授業態度、長期休業中の課題等）		C：3割		C：3割				
備考								

介護福祉基礎

総合学科

教科	福祉	単位数	3単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	介護福祉基礎 (実教出版)			副教材等		履修	必修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
介護とは何か、介護の意義と役割について学びます。介護従事者としての心構え・注意点等を学び、国民の求める介護従事者の在り方について考えていきます。また、介護従事者として必要な介護福祉サービスの具体的な内容及び利用方法等の知識を深めていきます。			<ul style="list-style-type: none"> 介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 介護活動に主体的・協働的に取り組む。 			介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項目	学 習 内 容			
	4月	第4編 介護福祉の 担い手	第1章 介護従事者をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士の養成 介護人材の確保と定着 介護従事者のキャリアアップ研修 介護従事者の社会的地位向上 			
	5月		第2章 介護従事者の役割	<ul style="list-style-type: none"> 介護の役割 介護福祉士の役割 介護従事者の安全 在宅介護従事者の役割 			
	6月			<ul style="list-style-type: none"> 施設介護従事者の役割 			
	7月			<ul style="list-style-type: none"> 施設介護従事者の役割 			
	9月	第5編 介護福祉サ ービスの概 要と連携	第1章 介護サービスの概要	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービスの利用方法 介護サービス提供の場の特性 居宅介護サービス（福祉系） 居宅介護サービス（医療系） 介護サービス提供の場の特性（施設） 施設サービス 障害者支援サービス 多職種連携とチームケア 協働する多職種の役割と機能 介護と医療 介護支援専門員とケアチームの連携 介護従事者とボランティアとの連携 			
	10月		第2章 介護における連携	<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス 障害者支援サービス 多職種連携とチームケア 協働する多職種の役割と機能 介護と医療 介護支援専門員とケアチームの連携 介護従事者とボランティアとの連携 			
	11月			<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス 障害者支援サービス 多職種連携とチームケア 協働する多職種の役割と機能 介護と医療 介護支援専門員とケアチームの連携 介護従事者とボランティアとの連携 			
	12月			<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス 障害者支援サービス 多職種連携とチームケア 協働する多職種の役割と機能 介護と医療 介護支援専門員とケアチームの連携 介護従事者とボランティアとの連携 			
	1月	第6編 介護におけ る安全確保 と危機管理	第1章 介護における安全確保と事故対策	<ul style="list-style-type: none"> 介護における安全の確保とリスクマネジメント 事故予防対策 転倒・転落事故 身体拘束の禁止について 感染症の理解 感染症の予防対策 健康管理の重要性 こころの健康管理・からだの健康管理 労働安全衛生に関する知識 福祉用具と介護ロボットの活用 家族介護者の健康 			
	2月		第2章 感染対策	<ul style="list-style-type: none"> 介護における安全の確保とリスクマネジメント 事故予防対策 転倒・転落事故 身体拘束の禁止について 感染症の理解 感染症の予防対策 健康管理の重要性 こころの健康管理・からだの健康管理 労働安全衛生に関する知識 福祉用具と介護ロボットの活用 家族介護者の健康 			
	3月		第3章 介護従事者の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 介護における安全の確保とリスクマネジメント 事故予防対策 転倒・転落事故 身体拘束の禁止について 感染症の理解 感染症の予防対策 健康管理の重要性 こころの健康管理・からだの健康管理 労働安全衛生に関する知識 福祉用具と介護ロボットの活用 家族介護者の健康 			
	学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。分からない専門用語については、事前に調べておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。演習等で学ぶ介護技術については、よく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・理解		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義や役割について理解している。 介護を必要とする人に、自立支援の観点に音づいた適切な介護福祉サービスを提供することを目指してその技術を活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から派生する介護福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深める。 基礎的な知識と技術を基に、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護に関心をもち、介護に関する諸課題に主体的かつ協働的に取り組むとともに、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方と介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
A：知識・技術（考査・小テスト、実習等）		A：4割		A：4割		1・2・3学期の平均	
B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等）		B：3割		B：3割			
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		C：3割		C：3割			
備考							

コミュニケーション技術

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	コミュニケーション技術 (実教出版)			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>本人・家族との介護場面におけるコミュニケーションの意義・目的・技法を理論と事例を組み合わせる科目です。 保健・医療・福祉など職種が連携・協力し介護を実践するためのコミュニケーションの意義や重要性についても考えていきます。</p>			<p>・本人・家族との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 ・介護を実践するためのチームにおけるコミュニケーションの在り方、重要性について理解する。 ・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。</p>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第1編 福祉実践におけるコミュニケーション	第1章 コミュニケーションの意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の理解と人間関係 ・福祉実践におけるコミュニケーション 			
	5月		第2章 コミュニケーションの基本技術	<ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション ・受容と共感 ・対人援助におけるコミュニケーションの実際 ・集団におけるコミュニケーション 			
	6月						
	7月						
	9月	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第1章 サービス利用者や家族との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族との関係づくり ・利用者や家族への支援 			
	10月		第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者とのコミュニケーション ・障害とコミュニケーション ・視覚障害のある人とのコミュニケーション ・聴覚障害のある人とのコミュニケーション ・言語障害のある人とのコミュニケーション ・運動機能障害のある人とのコミュニケーション ・知的障害のある人とのコミュニケーション ・発達障害のある人とのコミュニケーション ・高次脳機能障害のある人とのコミュニケーション ・精神障害のある人とのコミュニケーション ・認知症の人とのコミュニケーション 			
	11月						
	12月						
	1月	第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	第1章 記録	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義と目的 ・記録の種類 ・記録の方法と管理 ・チームのコミュニケーション ・情報の共有化 ・会議 			
	2月		第2章 チームによる連携				
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前にしっかりとよく読んでおきましょう。分からない専門用語は、福祉用語辞典で調べておきましょう。 【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、事例を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。 【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。実習の時は、学習した内容についてレポートを提出しますので、ポイントをしっかりと確認しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義を理解し、各場面に応じた技法について理解している。 ・対象に応じたコミュニケーションの技術及び方法を身に付け活用している。 ・事例・実習などについての資料や情報をまとめ適切に活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・対人援助活動の展開に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ・環境における問題点や状況を把握し、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの重要性とその方法に興味をもち、高齢者や障害者など生活支援に向けて介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を主体的・協働的に身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割		A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均
備考							

生活支援技術

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	生活支援技術 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
利用者の自立を尊重した生活を支援するための基本介護技術を学びます。また、状況に応じて介護を展開する「現場で活かせる技法」の習得を目指します。 さらに、高齢者の心と体の特性についての学習をもとに認知症や心身に障害のある高齢者に対して、適切な介護を行うことができる能力と態度を育成します。			・利用者の暮らしの場に密着した支援と、居住環境の整備や家事支援における介護のあり方を理解する。 ・利用者の尊厳の保持や自立支援を念頭に置き、科学的な根拠に基づいて介護を提供できる知識・技術を身に付ける。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けたそれぞれの障害に応じた介護技術の習得に向けて努力できる。			・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 生活支援の理解	第1章 生活の理解	・生活とは ・生活形成のプロセス			
	5月		第2章 生活支援の考え方	・生活支援の考え方と理解 ・尊厳の保持と自立支援 ・介護予防とリハビリテーション ・福祉用具の活用 ・介護従事者の健康管理と感染予防策			
	6月		第3章 生活支援と介護過程	・生活支援におけるアセスメント ・ICFの視点にもとづく生活支援			
	7月		第4章 多職種協働と他の専門職の役割	・生活支援における多職種協働 ・生活支援における他の専門職の役割			
	9月	第2編 自立に向けた生活支援	第1章 居住環境の整備	・自立に向けた居住環境整備の基本理念 ・快適な居住環境 ・高齢者および障がい者の住まい			
	10月		第2章 家事の支援	・自立に向けた家事支援の意義と目的 ・家事支援の技法～調理、食品の保存、衛生管理～ ・家事支援の技法～洗濯～ ・家事支援の技法～裁縫～ ・家事支援の技法～掃除・ゴミ捨て～ ・家事支援の技法～衣類・寝具の衛生管理～ ・家事支援の技法～買い物～ ・家事支援の技法～家庭経営・家計の管理～			
	11月		第3章 身じたくの支援	・身じたくの意義と役割 ・自立に向けた身じたくの支援介護の技法			
	12月	第2編 自立に向けた生活支援	第4章 移動の支援	・移動の意義と目的 ・自立に向けた移動の支援介護の技法			
	1月						
	2月						
	3月						
	学習方法	【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。介護技術については、模範実技をよく見て体験的に身に付けていきましょう。 【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。実技実習の時は、学習した内容についてまとめて、レポートを提出します。					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・高齢者や障害者の特性、対象者の状態に応じた適切な安全・安楽な介護方法についての知識・技術を理解している。 ・自立支援のための適切な介護技術を用い、実践的・体験的な学習活動を通して習得している。		・習得した知識や技術を活用し利用者の自立を促すことができるような支援方法について考えている。 ・利用者のニーズを理解し、適切な生活支援を考え、まとめることができる。		・専門職としての職業観を探究し、高齢者や障害者の尊厳の保持や自立支援を行うため、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割	A：4割 B：3割 C：3割	1・2・3学期の平均			
備考							

生活支援技術

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	3年次	選択群					
使用教科書	生活支援技術 (実教出版)			副教材等	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)	履修	必履修・ 選択				
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路				
<p>利用者の自立を尊重した生活を支援するための基本介護技術と安全・適切に実施するための医療的ケアに関する技術を学びます。また、状況に応じて介護を展開する「現場で活かせる技法」の習得を目指します。</p> <p>さらに、高齢者の心と体の特性についての学習を基に、認知症や心身に障害をもつ高齢者に対して、適切な介護を行うことができる能力と態度を育てます。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の暮らしの場に密着した支援と、居住環境の整備や家事支援における介護のあり方を理解する。 ・利用者の自立をふまえ移動、食事、排泄等、生活行為ごとの基本介護技術を身に付ける。 ・さまざまな障害がある利用者の生活について理解を深め、それぞれの障害に応じた介護技術の習得に向けて努力できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 ・福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。 				
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	単元名 (医療的ケア)	項目	項目 (医療的ケア)	学習内容	学習内容 (医療的ケア)				
	4月	第2編自立に向けた生活支援技術	第1章医療的ケア実施の基礎	第5章 食事の支援	第1節医療的ケア 第2節安全な療養生活	・食事の意義と目的 ・食事の支援の技法	・医療的ケアとは ・医行為について ・喀痰吸引等制度 ・医療的ケアと喀痰吸引等の背景				
	5月				第3節清潔保持と感染予防 第4節健康状態の把握	・入浴・清潔保持の意義と目的	・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施				
	6月			第6章 入浴・清潔保持の支援		・入浴・清潔保持の支援の事前準備や留意点	・救急蘇生 ・感染予防				
	7月		第2章喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)	第8章 睡眠・休養の支援	第1節高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 第2節高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	・入浴・清潔保持の支援の技法 ・睡眠・休養の意義と目的 ・睡眠・休養の支援の技法	・介護福祉職の感染予防 ・療養環境の清潔、消毒法 ・消毒と滅菌 ・身体・精神の健康 ・健康状態を知る項目 ・急変状態について				
	9月	第2編自立に向けた生活支援技術	第3章経管栄養 (基礎的知識・実施手順)	第7章 排泄の支援	第1節高齢者および障害児・者の経管栄養概論 第2節高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	・排泄の意義と目的 ・排泄の支援の技法 ・排泄障害の種類と対応 ・その他の排泄に関するさまざまな支援	・高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ・高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ・高齢者および障害児・者の経管栄養概論				
	10月			第9章 レクリエーションの支援		・レクリエーションの意義と目的	・高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説				
	11月		第4章演習		第1節喀痰吸引のケア実施の手引き 第2節喀痰吸引のケア実施の手引き	・レクリエーションの支援の技法	・口腔内および鼻腔内 ・気管カニューレ内部 ・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養				
	12月	第3編緊急時災害時の支援		第1章 緊急時の支援 第2章 災害時の支援		・緊急時における支援の意義と目的 ・応急手当の実際 ・災害時における介護従事者の役割 ・災害時における生活支援	・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 ・半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養 ・経鼻経管栄養				
	1月	第4編終末期の支援	第4章演習	第1章 終末期の支援	第3節救急蘇生法の手引き	・終末期の支援の意義と目的 ・終末期の支援における介護従事者の役割	・救急蘇生法 ・AED使用の手順				
	2月										
	3月										
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。介護技術・医療的ケア演習については、模範実技をよく見て体験的に身に付けていきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要ポイントは、必ず覚えましょう。実技実習の時は、学習した内容についてまとめて、レポートを提出します。</p>										
評価の観点・評価方法	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の状態に応じた介護方法に関する知識・技術を理解している。 ・介護従事者として安全に支援を行うために必要な様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援技術の理念に関心を持ち、積極的に授業に参加し、高齢者や障害者の命と生活に責任をもつ専門職としての職業観を探究し介護を行う上での基本的な考え方を介護を適切に行う態度を身に付けている。 				
	評価方法			第1・2学期			第3学期			年度末	
	A：知識・技術 (考査・小テスト、実習等) B：思考・判断・表現 (考査、課題・レポート等) C：主体的に学習に取り組む態度 (ノート・提出物・授業 (実習)態度等)			A：4割 B：3割 C：3割			A：4割 B：3割 C：3割			1・2・3学期の平均	
備考	3年次介護実習において、看護職より医療的ケアの基礎知識と対象に応じた実施方法について学ぶ。										

介護過程

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	介護過程 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>他科目で学んだ知識と技術を統合し、適切に介護過程を展開するための理論と方法を学びます。 さらに、介護過程の一連の流れを通して、介護従事者として必要な視点と実践的な能力を身につけます。</p>			<p>・介護過程について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・介護過程の展開に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・サービス利用者主体の介護過程を適切に展開できる主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1編 介護過程の意義と役割	第1章 介護職の役割	<ul style="list-style-type: none"> 介護の専門性 介護の目的と基本原理 根拠にもとづいた介護実践 介護過程とは何か 介護過程の意義と目的 介護過程とICF 			
	5月		第2章 介護過程の意義				
	6月	第2編 介護過程の展開	第1章 アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントとは 情報収集 情報の解釈・関連付け・統合化 課題の明確化 アセスメント表の作成 			
	7月						
	9月	第2編 介護過程の展開	第2章 介護計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画の意義と目的 介護計画の立案の視点 介護目標と具体的な支援内容・支援方法の設定 介護目標と具体的な支援内容・支援方法の設定の実際 介護計画書の作成 			
	10月						
	11月		第3章 介護計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画の実施における情報共有と情報管理 介護計画の実施における留意点 介護計画の実施状況の把握 実施の記録 			
	12月						
	1月	第2編 介護過程の展開	第4章 介護計画の評価	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画における評価 介護計画の評価の方法と留意点 介護計画の修正 			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前によく読んでおきましょう。 【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、座学と演習を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。 【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義を理解し、適切に介護過程が展開できる。 介護サービス計画や他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性を理解し、チームとして介護過程を展開する方法を理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と役割をふまえ、課題を解決するための思考を深めることができる。 介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護過程に興味をもち、高齢者や障害者などの地域で継続した自立生活支援に向けて、主体的かつ協働的に介護を行う上での基本的な考え方や、介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割	A：4割 B：3割 C：3割	1・2・3学期の平均			
備考							

介護過程

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	介護過程 (実教出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>他科目で学んだ知識と技術を統合し、適切に介護過程を展開するための理論と方法を学びます。 さらに、介護過程の一連の流れを通して、介護従事者として必要な視点と実践的な能力を身につけます。</p>			<p>・介護過程について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・介護過程の展開に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・サービス利用者主体の介護過程を適切に展開できる主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。</p>			<p>・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目		学 習 内 容		
	4月	第3編 介護過程の 実践的展開	第1章 介護過程の展開の実際		<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開の理解 ・介護過程の展開の実際 ・アセスメントの実際 		
	5月						
	6月						
	7月						
	9月	第3編 介護過程の 実践的展開	第1章 介護過程とチームアプローチの意義		<ul style="list-style-type: none"> ・評価の実際 ・利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 ・事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 		
	10月						
	11月	第4編 介護過程と チームアプ ローチ	第1章 介護過程とチームアプローチの意義		<ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチが持つ意義 ・多職種連携 		
	12月						
	1月	第4編 介護過程と チームアプ ローチ	第2章 介護過程とチームアプローチの実際		<ul style="list-style-type: none"> ・施設介護におけるチームアプローチ ・在宅介護におけるチームアプローチ 		
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書を事前にしっかりとよく読んでおきましょう。 【授業】 他の福祉科目と関連付けながら、座学と演習を通して、知識と技術を身に付けていきましょう。 【復習】 その日に学習した内容はしっかりと復習しましょう。</p>						
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・個性性を考慮した介護の提供に、介護過程が必要な事を理解している。 ・国際生活機能分類の視点を考慮し、介護過程を展開することを理解している。 ・具体的な事例を通して、情報収集やチームアプローチの展開方法を身につけ、その技術を活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義と役割をふまえ、課題を解決するための思考を深めることができる。 ・介護に携わる者として適切に判断し表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程に興味をもち、高齢者や障害者などの地域で継続した自立生活支援に向けて、主体的かつ協働的に介護を行う上での基本的な考え方と、介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割	A：4割 B：3割 C：3割	1・2・3学期の平均			
備考							

介護総合演習

総合学科

教科	福祉	単位数	1単位	対象	2年次	選択群			
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等			履修	必履修・ 選択	
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路		
効果的な介護実習ができるよう準備をします。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。				<ul style="list-style-type: none"> 介護実習の目的と意義、施設の特質実習内容を理解するとともに、介護観形成し、専門職としての態度を身に付ける。 他科目で学習した知識や技術を理解し、実習で応用することができる。 介護実習の体験から問題提起を行うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4 月	第1章 介護総合演習で何を学ぶか	第1節 介護総合演習の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習の指導 他科目での学びの統合化 多職種協働の意味と重要性の意識化 学習到達状況の把握と個別指導 養成教育全体の総まとめ 					
			第2節 介護総合演習の目的						
	5 月								
	6 月	第2章 介護実習で何を学ぶか	第1節 介護実習の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> なぜ介護実習が必要なのか 介護実習のおもな流れ 介護福祉士養成カリキュラムと介護実習 実習Ⅰ・Ⅱの目的とおもな実習内容 介護実習前に何を学ぶべきか 介護実習での学びをどのようにいかすか 					
			第2節 介護実習の種類						
	7 月								
			第3節 実習前の学びと、実習後の学びのいかし方						
	9 月	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	第1節 介護実習前の学習の内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習前後の学習の意義と目的 介護実習前後の流れ 実習中の態度、日々の行動目標 観察と考察、報告・連絡・相談 実習中の事故や不測の事態への対応 介護実習後の学習の意義と目的 介護実習後の流れ 実習Ⅰのねらい 実習モデルに合わせた実習の目的、目標 利用者の状態像の観察、生活課題の理解 安全、快適に配慮した介護技術の実践 利用者を取り巻く家族や近隣との関係 利用者を取り巻く社会の支援体制の理解 					
			第2節 介護実習中の学習の内容と方法						
	10 月		第3節 介護実習後の学習の内容と方法						
11 月	第5章 実習Ⅰの展開	第1節 実習Ⅰのねらいと実習モデル							
		第2節 実習モデル①(利用者理解)							
12 月		第3節 実習モデル②(介護技術の実践)							
		第4節 実習モデル③(地域理解)							
1 月	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	第1節 訪問介護	<ul style="list-style-type: none"> どのようなサービスなのか どのような人たちが利用しているのか どのような生活や活動をしているのか 介護福祉職はどのようなチームを組んで協働しているのか 地域をどのように意識して、取り組みにつなげているのか 						
		第2節 通所介護							
2 月		第3節 通所リハビリテーション							
		第7節 グループホーム							
3 月		第8節 小規模多機能型居宅介護							
学習方法	<p>【予習】 設定した課題について調査しましょう。</p> <p>【授業】 グループワークや発表会等、体験的な学習を多く取り入れるので、自分の考えをしっかりと主張しましょう。</p> <p>【復習】 介護実習後は、目標達成度の評価をきちんと行いましょう。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習の目標設定ができ、その意義について理解している。 他職種協働の重要性を理解している。 反省と評価の方法を理解している。 各領域での学びを統合し、高齢者や障害者の状態に応じた介護技術を適切に選択して活用している。 			<ul style="list-style-type: none"> 福祉現場（地域福祉や福祉社会）で、自分がどのような介護ができるのか考え、介護サービス・介護従事者としての専門性について思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 福祉現場（地域福祉や福祉社会）への関心を高め、介護実習に意欲的に臨み、問題解決のために自主的・実践的・体験的な学習活動を行い態度で取り組み、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末			
A：知識・技術（考査・小テスト等） B：思考・判断・表現（考査・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度：（提出物、授業態度、長期休業中の課題等）	A：4割 B：3割 C：3割		A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均				
備考	「介護実習」での現場体験と一部関連しています。								

介護総合演習

総合学科

教科	福祉	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必修修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>効果的な介護実習ができるよう準備をします。 各領域での学びを統合化し、介護実習に向かうために必要な知識と技術の学習を、実習の時期や内容と連動させて継続的、総合的に行います。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、介護現場で積極的に学ぶ実践的態度を身につける。 他科目で学習した知識や技術を理解し、実習で応用することができる。 介護実習の体験から問題提起を行うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	第4節 特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	<ul style="list-style-type: none"> どのようなサービスなのか どのような人たちが利用しているのか どのような生活や活動をしているのか 介護福祉職はどのようなチームを組んで協働しているのか 地域をどのように意識して、取り組みにつなげているのか 			
	5月		第5節 介護老人保健施設				
	6月		第6節 養護老人ホーム				
	7月	第6章 実習Ⅱの展開	第1節 実習Ⅱのねらいと実習モデル	<ul style="list-style-type: none"> 実習Ⅱのねらい 想定される実習Ⅱのモデル 			
	9月		第2節 実習モデル・介護過程を展開する介護実習	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の展開を軸にした実習の目的 観察、コミュニケーション、記録類を通じた介護に必要な情報収集 収集した情報の解釈、関連づけ、統合化と、利用者の生活課題の明確化 			
	10月	第6章 実習Ⅱの展開	第2節 実習モデル・介護過程を展開する介護実習	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や他職種との介護計画立案 介護実践の科学的探求 利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護の実践 介護目標達成の評価 具体的な支援内容が適切であったかの評価 介護計画を修正する必要性の判断 介護実習Ⅱのモデルと関連する他科目の学習 「介護過程の展開」のまとめとふり返り 			
	11月						
	12月						
	1月	第7章 介護総合演習の実際	第1節 介護総合演習における知識と技術の統合化	<ul style="list-style-type: none"> 他科目で学んだ知識と技術を統合する方法 質の高い介護に向けた実践研究 			
	2月		第2節 介護総合演習における介護観の形成	<ul style="list-style-type: none"> 介護観とは何か 介護観を養う 介護観を発信する 			
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 設定した課題について調査しましょう。 【授業】 グループワークや発表会等、体験的な学習を多く取り入れるので、自分の考えをしっかりと主張しましょう。 【復習】 介護実習後は、目標達成度の評価をきちんと行いましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習の目標設定ができ、その意義について理解している。 他職種協働の重要性を理解している。 反省と評価の方法を理解している。 他科目での学びを統合し、高齢者や障害者の状態に応じた介護技術を適切に選択して活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> 福祉現場（地域福祉や福祉社会）で、自分がどのような介護ができるのか考え、介護サービス・介護従事者としての専門性について思考を深め、介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 福祉現場（地域福祉や福祉社会）への関心を高め、介護実習に意欲的に臨み、問題解決のために自主的・実践的・体験的な学習活動を行い態度で取り組み、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技術（考査・小テスト、実習等）		A：4割	A：4割	1・2・3学期の平均			
B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等）		B：3割	B：3割				
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）評価方法		C：3割	C：3割				
備考	「介護実習」での現場体験と一部関連しています。						

介護実習

総合学科

教科	福祉	単位数	1単位	対象	1年次	選択群							
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必履修・ 選択						
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路							
社会福祉の施設等における介護実習を通して、高齢者や障害者への個別ケアを理解します。介護技術の実践を通して、介護に関する基礎的な知識と技術、態度を身に付ける科目です。			・介護実習の意義・心得を理解した上で実習に臨む。 ・施設の概要や介護福祉士の役割等をふまえた上で、基本的な知識や技術の定着を図る。 ・自らの課題を発見し、2年次の介護実習につなげる。			・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 ・福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。							
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容									
	4月	・介護実習	1 コミュニケーションの実践 2 介護技術の実践 3 多職種協働及びチームケアの理解	・生活の場における個別ケアの理解 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践 ・介護技術の確認 ・多職種協働や関係機関との連携 ・チームの一員としての介護福祉士の役割の理解 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 ・地域の施設における対象者の理解 ・地域の施設における生活支援の必要性の理解と実践									
	5月												
	6月												
	7月												
	9月												
	10月												
	11月												
	12月												
	1月												
	2月												
	3月												
	学習方法							【予習】 「介護実習オリエンテーション資料」をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。 【実習】 介護専門職としての自覚をもって取り組むとともに、礼儀・規律を重んじて謙虚な気持ちで学びましょう。疑問点はその日のうちに解決しましょう。 【復習】 実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんと整理しておきましょう。					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術							思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・介護専門職としてふさわしい態度や資質を理解している。 ・介護専門職としての基本的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。		・対象者に応じて科学的根拠に基づき、介護技術やコミュニケーション方法を考えることができる。 ・介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。		・介護専門職としての自覚をもち、主体的・協働的に実習に取り組んでいる。 ・介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。								
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末						
	A：知識・技術（介護実習等） B：思考・判断・表現（実習、レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（提出物・授業(実習)態度等）		A：4割 B：3割 C：3割		A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均						
備考	福祉サービス系列選択者は12月に4日程度、介護実習を行います。												

介護実習

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>社会福祉の施設等における介護実習を通して、講義・演習・校内実習などで学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動を実践し、介護に関する基礎的な知識と技術、態度を身に付ける科目です。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の意義・心得を理解した上で実習に臨む。 ・施設の概要や介護専門職の役割等を踏まえた上で、基本的な知識や技術の定着を図る。 ・自らの課題を発見し、3年次の介護実習につなげる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 ・福祉サービスマジック選択者のみ履修可能です。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	介護実習	1 コミュニケーションの実践 2 介護技術の実践 3 多職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における個別ケアの理解 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・介護技術の確認 ・多職種協働や関係機関との連携 ・チームの一員としての介護福祉士の役割の理解 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 			
	5月						
	6月						
	7月	介護実習	1 コミュニケーションの実践 2 介護技術の実践 3 多職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における個別ケアの理解 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・介護技術の確認 ・多職種協働の実践 ・チームの一員としての介護福祉士の役割の理解 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 ・地域における生活支援の実践 			
	9月						
	10月						
	11月	介護実習	1 コミュニケーションの実践 2 介護技術の実践 3 多職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における個別ケアの理解 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・介護技術の確認 ・多職種協働の実践 ・チームの一員としての介護福祉士の役割の理解 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 ・地域における生活支援の実践 			
	12月						
	1月						
	2月	介護実習	1 コミュニケーションの実践 2 介護技術の実践 3 多職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場における個別ケアの理解 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・介護技術の確認 ・多職種協働の実践 ・チームの一員としての介護福祉士の役割の理解 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 ・地域における生活支援の実践 			
	3月						
学習方法	<p>【予習】 介護実習オリエンテーション資料をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。</p> <p>【授業】 介護専門職としての自覚をもって取り組むとともに、礼儀・規律を重んじて謙虚な気持ちで学びましょう。疑問点はその日のうちに解決しましょう。</p> <p>【復習】 実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんと整理しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・介護専門職としての役割を理解するとともに、ふさわしい態度や資質を理解している。 ・介護専門職としての基本的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に応じて科学的根拠に基づき、介護技術やコミュニケーション方法などをまとめることができる。 ・介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護専門職としての自覚を持ち、主体的・協働的に実習に取り組んでいる。 ・介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
A：知識・技術（介護実習等） B：思考・判断・表現（実習、レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割				1、2学期の実習の評価を基に総合的に評価します。	
備考							

介護実習

総合学科

教科	福祉	単位数	7単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 (中央法規)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
1・2年次での介護実習や今までの学習をふまえて、介護過程の展開を通して対象者を理解し本人主体の生活と自立を支援するための実践や、専門職としての総合的な知識と技術の習得と資質の向上を図ります。			<ul style="list-style-type: none"> ・実習上の問題点や次のステップへの課題を明確にしながら取り組む ・介護の本質についての考察を深め介護専門職として倫理・価値観を身に付ける。 ・高齢者や身体障害者の身体的・精神的特徴を理解した上で、実践的な介護知識及び技術を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 ・福祉サービス系列選択者のみ履修可能です。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	介護実習	1 対象者の理解とその方法 (介護過程の展開) 2 処遇の実際 3 記録	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的・心理的特徴、高齢者の身体的・精神的障害、個々の入所に適した処遇のあり方 ・介護過程の実践的展開 ・記録の意味・記録の種類と書き方・記録の活用と秘密保持 ・ADLにおけるニーズと介護の方法、施設職員の機能 ・多職種協働の実践 ・記録の活用・スーパービジョンの方法 ・地域における生活支援の実践 			
	5月						
	6月						
	7月						
	9月						
	10月						
	11月						
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】「介護実習オリエンテーション資料」をよく読みましょう。また、技術面の復習をしっかりと行いましょう。</p> <p>【授業】介護専門職としての自覚をもって取り組むとともに、礼儀・規律を重んじて謙虚な気持ちで学びましょう。疑問点はその日のうちに解決しましょう。</p> <p>【復習】実習日誌は毎日、現場実習指導者に提出しますので、きちんと整理しておきましょう。</p>					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・介護専門職としての基本的な知識や技術について情報を収集し適切に選択して活用している。 ・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に応じて科学的根拠に基づき、介護技術やコミュニケーション方法などを考えることができる。 ・介護専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護専門職としての自覚をもち、主体的・協働的に実習に取り組んでいる。 ・介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
A：知識・技術（介護実習等）		A：4割				1・2学期の実習の評価を基に、総合的に評価します。	
B：思考・判断・表現（実習、レポート等）		B：3割					
C：主体的に学習に取り組む態度（提出物・授業（実習）態度等）		C：3割					
備考							

こころとからだの理解

総合学科

教科	福祉	単位数	3単位	対象	2年次	選択群	
使用教科書	こころとからだの理解 (実教出版)			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
介護を行う上で必要となる、人間の「からだのしくみ」と「こころのしくみ」を学びます。さらに、認知症、障害のある人の生活と介護を学ぶことで、介護実践に適切に活用できる技術と知識を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能、こころのしくみについての基礎的・基本的な内容について理解する。 ・疾病の成り立ちと回復の過程について、基礎的な内容を理解し、説明できる。 ・認知症及び障害に関する、原因、治療法、予防について理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。 	
学年 の 間 計 画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第1編 こころとからだの基礎的理解	第1章 こころの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの生活と健康 ・ 人間の欲求の基本的理解 ・ 動機づけ ・ 自己概念と尊厳 ・ 思考・感情・学習・記憶・知能のしくみ ・ 適応と防衛機制 			
	5月		第2章 からだのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命維持・恒常性・脳・神経系・運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・感覚器系・内分泌系・泌尿器系 ・ 生殖器系・血液・免疫系のしくみ 			
	6月	第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解		第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身じたくに関するこころとからだのしくみ ・ 移動に関するこころとからだのしくみ ・ 食事に関するこころとからだのしくみ ・ 入浴に関するこころとからだのしくみ ・ 排泄に関するこころとからだのしくみ ・ 睡眠・休養に関するこころとからだのしくみ 		
	7月			第2章 生活場面の变化に関するこころとからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染に関するこころとからだのしくみ ・ 緊急時に関するこころとからだのしくみ ・ 災害時に関するこころとからだのしくみ ・ 終末期に関するこころとからだのしくみ 		
	9月				第3編 発達と老化の理解	第1章 人間の成長と発達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の成長と発達の基礎的理解 ・ 発達段階 ・ 発達課題 ・ 老年期の定義と特徴 ・ 加齢に伴う心身の変化の特徴 ・ 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響
	10月	第2章 老年期の理解と日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心理 ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者の健康の維持・増進 ・ 保健・医療職との連携 				
	11月		第3章 高齢者と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健・医療職との連携 			
	12月						
	1月						
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の構造やこころのしくみ、認知症、障害に関する基礎的な内容についての知識を身に付けている。 ・ 人間の健康と疾病及びこれらと環境の関係について理解している。 ・ 人体の構造と機能の知識をもとに、介護の現場に生かすことを目指してその技術を活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体のこころとからだの理解の必要性を理解し、医学的根拠に基づいた援助活動を考え、疾病の治療や予防について介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の構造や働き、人間の基本的な生活行動に関する器官の働きや疾病の成り立ちに関心を持ち、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けようとしている。 		
評価方法	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	A：知識・技術（考査・小テスト、実習等） B：思考・判断・表現（考査、課題・レポート等） C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		A：4割 B：3割 C：3割		A：4割 B：3割 C：3割		1・2・3学期の平均
備考							

こころとからだの理解

総合学科

教科	福祉	単位数	5単位	対象	3年次	選択群	
使用教科書	こころとからだの理解 (実教出版)			副教材等		履修	必修修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
介護を行う上で必要となる、人間の「からだのしくみ」と「こころのしくみ」を学びます。さらに、認知症、障害のある人の生活と介護を学ぶことで、介護実践に適切に活用できる技術と知識を身に付けます。			<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能、こころのしくみについての基礎的・基本的な内容について理解する。 ・疾病の成り立ちと回復の過程について、基礎的な内容を理解し、説明できる。 ・認知症及び障害に関する、原因、治療法、予防について理解する。 			・介護福祉士国家試験受験資格取得のためには必ず履修してください。	
学年 の 計 画	月	単元名	項目	学 習 内 容			
	4月	第4編 認知症の理解	第1章 認知症をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの歴史と理念 ・認知症高齢者の現状と施策 ・認知症の医学的・心理的理解 ・認知症による症状 ・認知症の診断 ・認知症の主な病気の特徴 ・認知症の治療・予防 			
	5月		第2章 認知症の基礎的理解				
	6月		第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活 第4章 認知症と地域サポート				
	7月						
	9月	第5編 障害の理解	第1章 障害の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ・障害者福祉の基本理念 ・障害の医学的・心理的理解 			
	10月		第2章 生活機能障害の理解				
	11月		第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活 第4章 障害と地域生活支援				
	12月						
	1月	第5編 障害の理解	第4章 障害と地域生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の心理 ・障害に伴う機能の変化と日常生活への影響と支援方法 ・障害のある人の地域生活上の困難と支援 ・障害のある人の地域サポート体制 ・家族への支援 			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造やこころのしくみ、認知症、障害に関する基礎的な内容についての知識を身に付けている。 ・人間の健康と疾病及びこれらと環境の関係について理解している。 ・人体の構造と機能の知識をもとに、介護の現場に生かすことを目指してその技術を活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人体のこころとからだの理解の必要性を理解し、医学的根拠に基づいた援助活動を考え、疾病の治療や予防について介護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造や働き、人間の基本的な生活行動に関する器官の働きや疾病の成り立ちに関心をもち、介護を行う上での基本的な考え方や介護を適切に行う態度を身に付けている。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
A：知識・技術（検査・小テスト、実習等）		A：4割	A：4割	1・2・3学期の平均			
B：思考・判断・表現（検査、課題・レポート等）		B：3割	B：3割				
C：主体的に学習に取り組む態度（ノート・提出物・授業（実習）態度等）		C：3割	C：3割				
備考							